

Title	日本人大学生のグループ討論における結論生成と進行役の役割
Author(s)	大塚, 淳子
Citation	日本語・日本文化. 29 P.147-P.159
Issue Date	2003-03
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/8275
DOI	10.18910/8275
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

<研究報告>

日本人大学生のグループ討論における 結論生成と進行役の役割

大塚 淳子

1. はじめに

日本の学校教育でも討論が取り入れられるようになってきた。ところで、大浜(2000)は、留学生が日本人と話していると、どこで合意が形成されたかわからず、困難を感じていると指摘している。

Gumperz (1982) は、異文化を持つ者同士の会話では、参加者が互いに異なる期待を持っているがために、誤解が生じるとし、Tannen (1993) は、文化により会話のスタイルが異なることを指摘している。

また Smithson & Diaz (1996) は合意を形成する討論とそうでない討論とではスタイルが異なることを指摘している。合意を形成するタイプのグループ討論については、Watanabe (1993) が日米の比較を行ない、討論の行ない方が日米で異なることを明らかにした。同様の枠組みで、陳 (1997) は日中を、郭等 (1998) は日中韓を、藤井等 (1998) は日本人と学習者の比較を行なった。Watanabe は日本人グループにはアメリカ人グループには存在しない進行役がいること、郭等は、この進行役が結論生成に重要な役割を果たしていると指摘している。即ちある文化では存在しない進行役が、結論の生成に重要な役割を担っているのである。

本稿では、結論生成が目的の討論で進行役が担う役割を明らかにする。

2. 先行研究および研究目的

1980年代以降、エスノメソドロジーの会話分析の手法を談話研究にも取り入れ、実際の会話資料を分析した様々な研究がされるようになってきた。

日米の比較を行なった Watanabe (1993) は、日本人グループには進行役が存在すること、開始・終結の手続きが複雑なこと、一人で複数の観点から話すことを指摘した。年上・男性が進行役となり、意見も熟慮した後に述べることから、グループ討論にもタテ社会の人間関係が反映されているとしている。

日本人・中国人・韓国人のグループ討論を比較した郭等 (1998) は、いずれも進行役が存在しており、役割は「開始と終了の宣言、結論をまとめるなどが共通していた」としている。また、韓国人では進行役が存在しなかったグループにのみ結論がでなかったことから、「進行役が結論をだすためのディスカッションにおいては重要な役割があるといえる」としている。しかし、進行役が存在しなかったグループで結論が出なかった理由についての詳しい分析はしていない。また進行役の決定は、日本人は、「最初に口火を切った者が自然の成り行きで」なるとしながら、年齢差よりも性差が強く影響しているとしている。更に進行役は途中で変更する場合があるとしながら、経緯や理由は述べていない。

本稿の目的は、日本人大学生により実際に行なわれたグループ討論を会話資料として分析することにより、進行役がどのような役割を担っているのか、その進行役と結論生成とどのような関係があるのか、進行役がどのような要因により決定し、なぜ移行するのかを明らかにすることである。

3. 分析方法

3.1 会話資料の収集

大学2、3年生の男女2名ずつを1グループとして、10グループに、「a. 理由を述べる、b. 賛否を述べる、c. 賛否いずれかグループとしての結論を出す」という3つのタイプの課題を与え、20分程度でグループ討論を行ってもらい、それを録音し、文字化した。

3つの課題の順番、討論の開始及び終了は、各グループに任せた。このグループ討論は授業の延長として行なったため、課題に取り組む姿勢は、大学生の通常の授業における討論とほぼ同様になったと考えられる¹⁾。

本稿ではcについて分析するが、進行役の認定にあたっては、a、bも参考とした。なおcの内容は、「脳死を人の死と法律で決めることについて賛成ですか、反

対ですか。グループとしての結論を出してください」というもので、資料の収集(1997年5月)時点では、脳死の法制化は、まだなされていない。

会話資料の文字化記号は、A、Bは女性話者、X、Yは男性話者、数字は発話番号、?は上昇イントネーションを示す。

3.2 進行役の認定および資料の性質

Watanabe (1993) は、日本人グループでは討論の開始・終結の宣言がされると指摘しており、本資料もほぼ同様だった²⁾。また、課題から課題への移行部分は、「終結のシグナル⇒確認⇒終結行動⇒次の課題の読み上げ」³⁾となっていた。討論の開始・終結の宣言、課題移行時の終結の確認・次の課題の読み上げを行なった者を進行役と認定した。認定は筆者と協力者の2名で行なった。

課題内の談話構造を見ると、a、b内部の談話構造はほぼ同じで、会話参加者が全員、一通り意見を言えば課題が達成されると考えられ、進行役の役割は、最初の課題での指名と、課題の読み上げ・終結シグナルである。しかし、cでは、グループとしての結論を出す必要があるため、より複雑な談話構造⁴⁾となり、進行役の役割もa、bとは異なると推測できる。

4. 分析結果

まず進行役の役割を、討論の運営に関わる点と、結論生成に関わる点について分析する。討論の運営に関わる点を分析するのは、役割を明らかにするだけでなく、進行役の決定及び移行にも関わるからである。次に進行役の決定及び移行が如何になされるのかを分析する。

4.1 討論の運営における進行役の役割

討論の開始・終結の宣言、課題移行時の終結の確認、課題の読み上げを行なっている者を進行役として認定したが、これ以外に討論の運営にどのような役割を担っているのだろうか。

・問題点の整理

[例1] 124A やっぱり、死んでいな寄付できないというのがあるから、やっぱりそういう基準があったほうが良いと思います。

(略)

162X うん、とりあえず、法律で決めることは、みんなの意見として必要なって、あとは、その脳死というのも、人の死なのか、植物状態になっているのが脳死なのか、それとももう完全に全部止まった状態が死なのか、というそのレベルだよね

今回の課題では、「脳死を人の死とするか」「それを法律で決めること」という2点の問題点がある。しばしば、脳死に対する感情論、法律化についての意見が錯綜するが、Xは162Xで、「みんなの意見として」コンセンサスが得られている部分を示し、これから解決しなければならぬ部分は「あとは」と明示化し、問題点の整理を行なっている。

・意見がでない時

討論が行き詰まりポーズが続いた後で、問題点が提起されたり、質問や感想が述べられることによって、討論が再燃する場合がある。ポーズ後の発話を調べると、102発話中50発話(49%)が進行役によってなされていた。

この他に、賛否を表明しない者や、意見をあまり言わない者への指名も進行役が行なっていた。

4.2 結論生成における進行役の役割

進行役が、会話参加者の意見をまとめた形にして提示し、同意・確認を得た上で、グループとしての結論となっている。

[例2]ではXが進行役で、当初、法律で決めなければ病院が困るからという理由で賛成、それに対しY、A、Bは、本人や家族の問題で法律で決めることではないから反対と、意見が分かれていた。そこで「家族の承諾なしに移植ができるか⇒自分や親が脳死になったらどうか⇒外国はどうか」とトピックが移っていき、「外国で移植を待つのは大変だから、法律の内容が本人や家族の意思が反映される

ものならいい」となる。さらに、意思を確認する方法が検討され、10秒間のポーズが続く。

- [例2] 213Y 結論は？結論は？
 214X 結論？ 結論は、やっぱり、うーんとねー
 215Y まだ早いー？
 216X いや、もう、だから、こう、…決めることは一…この文字通り人の死を法律で決めることについては、まあ一…好ましくないかもしれないけど一、移植に関してのことを考えると一…その制度を整備しておく必要があるから一、それは、いいことではあると思うと、
 218Y うん
 219X いいのかなー、みんなそうなのかなー
 220Y おれは、そうだけど

215Yの「まだ早いー？」に見られるように、十分話し合われた後での10秒間のポーズは討論が終結に近づいていることを示している。この段階で、YがXに対し結論を促し(213Y)、Xもこれを受け(214X、216X)、まとめを提示し(216X)、会話参加者の確認をとっている(219X、220Y)。Xが結論の要請に応じているように、まとめの提示が進行役である自分の役割と認識していると考えられる。このように「結論は？」とまとめの提示を促される例が10例中6例あった。

では、まとめとして提示されるのはどのようなものか。216Xを見ると、当初、A、B、Yが法律化に反対だったことを考慮し、「好ましくないかもしれないけれど」としている。また、討論の中でA、B、Yの意見が「法律の内容が本人や家族の意思が反映されるものならいい」と変化し、意思を反映させる方法を全員で検討したことを受けて、「移植に関してのことを考えると、その制度を整備しておく必要があるからそれはいいことだ」としている。

このように進行役の提示するまとめは、それまで出てきた意見から現在の会話参加者の総意を汲み取ったもので、特定の個人の意見ではない。

では、個人の意見と認識された場合、グループの結論となるのだろうか。

- [例3] 205X うん、とりあえず2つやね、この場合、脳死を人の死と認め

- ることと、あとそれを法律で定めることやね、
- 206Y うん
- 207X とりあえず、法律で定めることは必要だし、脳死を人の死と認めることも、まあ、いいんじゃないかなあ、という意見やね、僕の結論は
- 208Y ううん、何ですか、つけ、
(ポーズ)
- 209X 何か奇跡を待っているのかな、あるのかな、そういう一例とか
(略)
- 217X うん
(ポーズ)
- 219A 一応、じゃ、結論は、脳死は人の死、法律で決めることも必要ということでもいいですか
- 220B はい
- 221X じゃ、終わりましたよ、終わります

[例 3] は X が進行役だが、205X で、問題点が 2 つだということを明示し、Y が確認している (206Y)。「脳死を人の死と認めること」「法律で定めること」は既に話し合われており、討論が最終段階に入っていると考えられる。しかし、207X が、「ぼくの結論は」としたために、208Y は、「ううん」と同意を示さない。これは、グループとしての結論が示されるであろうと期待していたのに、そうではなかったためにどのように反応していいかわからずに生じた反応ではないだろうか。A、B に関しては、何も反応していない。一方 X は、しばらく待っても A、B から 207X に対する言及がないため、「何か奇跡を待っているのかな」というトピックを提示するが、これは討論の続行の必要性を感じたために、提示したトピックだと考えられる。しかし、これに対しても A、B からの反応はない。結局、X、Y の「うん」の交換・ポーズで、話の区切りがついたところで、A が「結論は……といことでもいいですか (219A)」と、207X と同様の内容をグループとしての結論としてもいいかの確認を行なって、結論となった。

このように、進行役が結論として提示するものは、個人的な意見ではなく、あ

くまでも会話参加者の総意と思われることである。そして、他の会話参加者の同意をもって、グループの結論となる。

今回の資料では、進行役がまとめを提示し、会話参加者の同意・確認を求めるものが10例中8例だったが、まとめを提示しないで結論がでた例も1例あった。それは、進行役がまとめを提示して確認するのではなく、最後に賛成・反対を1人ずつ聞いて確認をする、というものだったが、それまでの討論の流れから、全員が反対だろうと予想されたからだろう。また、多数決をとるというのは1例もなかった。このことから、グループとしての結論とは、参加者全員の同意をもって成立すると認識していると考えられる。

ところで、今回、3例で結論が出ていない。それはなぜか。

- [例4] 424B 結論、結論
 425X 結論？
 426B 法律、法律
 427X 国民投票で決めよう
 428A あー、それがいいーねー
 429B それがいいー

424B、426BによりXはまとめの提示を促され、「国民投票で決めよう」とし、A、Bの同意を得ている。しかしこれはその後X自身によって否定され、「結論がでないという結論」となっている。この場合、まとめの提示を促す以前の討論で、法律化即ち投票で定めることへの疑念が解決されていない。Xは、「国民投票」も投票であり、討論の中で解決されなかった問題に抵触していると気づき、提示したまとめを否定している。

今回のグループ討論では、ある問題が提起されてもそれを解決しないまま次のトピックに移行したり、意見としてではなく単に感想のように述べられることが多々あった。そういう状況で総意を汲み取ることは困難で、一度提示されたまとめも、同意が得られなかったためにグループとしての結論とはならなかったと考えられる。結論の出なかった3例中2例が、まとめはあったが同意されなかった例で、残り1例は、適切なまとめが提示されていない。このことから、まとめの提示の重要性と困難さが推測できる。

4.3 進行役の決定及び移行

以上の分析より、進行役が、討論の運営と、「適切なまとめを提示する」ことを期待されており、それが結論の生成に影響していることが明らかになった。では討論で重要な役割を担う進行役は、どのように決定するのだろうか。

進行役決定の手続きは、討論の最初の発話者が引きうけた場合が8例、参加者の推薦などの手続きを経た場合が1例(男性)、課題aで最後に発言した者がaを終了したと認識して課題を移行したためにその後も進行役を担った場合が1例であった。以上から討論の最初の発話者が進行役となることが多い。

また、進行役の年齢・性別は、次表⁵⁾のとおりである。

男 性			女 性		
年上	同年齢	年下	年上	同年齢	年下
4	4	0	1	1	0

他の参加者よりも年上、同年齢の場合は、男性が進行役となっている。しかし男性が年下で進行役となった例は無いので、性別・年齢のどちらが優先されるかは不明である。とはいえ、年下が無いこと、同年齢では女性が少ないことから、性別・年齢が進行役の決定には考慮されたと考えられる。

以上より、年齢、性別を考慮した上で、だれから話し始めるかが重要だと考えられる。

進行役は、以上のような経緯で決定されたが、途中で他の者に移行している場合が3例あった。なぜ、進行役が移行したのだろうか。

- [例5] 345B 結論
 346A 結論?
 347Y 結論
 348B (笑い) 法律で決める
 (ポーズ)

このグループは、女性2人が3年生、男性2人が2年生で、当初、Aが進行役をしていたが、脳死についての知識も、法案についても知識がない。しかしXは、知識要求に応じ、脳死や植物人間についての知識を提供し、さらに問題となって

いる法案の内容についても言及している。一旦、このグループでは、345Bのように、「結論」を促す声が出るが、進行役であるAは「結論?」と言ってそれ以上応じない。そこで、347Yに対しBがAに代わって応じ進行役を引きうける。このように、Aは結論を促す声に応じず、進行役を自ら放棄している。

ところで、討論はその後、A「うーん」、B「だめだ、あきらめよう」、Y「うーん」となり、完全に行き詰まってしまう。その時、Xから「最終的に死んじやつたか決める権限を一、本人で、もし万が一本人の意思がとれなかったら家族に任せるとして」という提案がされる。これを契機に、どのように意思を表示するかなどについて話し合われる。

- 424B 結論、結論
 425X 結論?
 426B 法律、法律
 427X 国民投票で決めよう
 428A あー、それがいいー
 429B それがいいー

424Bは、「結論、結論」としてまとめを提示することを要求しているが、これはAに向けられたものではなく、425でXが反応していることから、Xに向けられたものだと考えられる。425Xは、「結論?」と上昇イントネーションで自分がまとめを提示することへの疑念を示すが、Bの更なる発話「法律、法律」に促され、「国民投票で決めよう」とし、A、Bの同意を得ている。427Xが424Bのまとめの提示要請によってされたこと、それにA、Bが反応していることから、427Xはグループとしてのまとめを提示するという進行役の役割を引き受けたと考えられる。

このように進行役が、当初のAからXに変わっている。これは、Xが専門的な知識を持っていたこと、討論に行き詰まった時に、討論を推し進めるために貢献したこと、更に当初進行役であったAが進行役を放棄したことが影響したと考えられる。しかし、進行役よりも専門的な知識を他の参加者が持っていたとしても進行役が変わらない場合もあった。また、討論を推し進める役は、「4.1 討論の運営」でみた通り進行役が担うことが多いが、他の参加者もすることである。

一方、進行役が途中で移行した例がもう1例あったが、そこでも、当初の進行役が自ら放棄することにより移行している。このことから、進行役の移行には、本人の放棄が大きな要因になっていると考えられる。

大学生のグループ討論の進行役は、固定的なものではなく、流動性のあるものだと考えられる。

5. まとめおよび今後の課題

進行役は、討論の円滑な運営に貢献するとともに、結論生成に重要な役割を担っている。即ち、グループとしての結論は、進行役がまとめを提示し、参加者の同意を得なければならない。そのまとめは、誰か特定の個人の意見ではなく、参加者の総意でなければならない。まとめを提示するためには、話の流れを把握し、各参加者の意見の変化を汲み取らなければならない。

結論が生成されるかどうかは、提示されたまとめが同意を得ることによって結論となり、同意を得られない場合は、結論とはならない。また、多数決は行なわれない。このことから、小人数のグループ討論でグループとしての結論とするには、参加者全員が同じ意見になることが必要だと考えられる。

大学生のグループ討論における進行役の決定は、年齢・性別を考慮した上で、最初に話し始めた者となる。しかし、進行役は固定的なものではなく、流動性がある。進行役の移行に際しては、現進行役が自ら降りることによってなされる。大学生のグループ討論では、本来、会話参加者が対等であるという前提条件があり、また進行役の決定も「最初に発話した者」という一見偶発的要因で決定されているため、進行役という責任をまっとうしなければならない、というものではないためではないだろうか。

誰から話し始めるかが進行役の決定に重要な役割を果たしているということは、その手続きを非言語行動も含め分析することが重要だと考えるが、今回は非言語行動がわからないため今後の課題とする。

註

- 1) グループは座席の近くの者を強制的に1グループとしたため、親疎は、概ね同性では友人、異性では初対面に近くなった。
- 2) 本資料では、開始部は各自の名乗り後、課題の読み上げとなっていた。最初の課題の読み上げを開始部とした。
- 3) 藤井等 (1998) は、トピックの移行部分を分析し、トピックの移行に際しては、「まとめ、評価、進行に関わるメタ言語、トーンダウン、ポーズ」などの終結シグナルが示された後、「ポーズ、笑い、うーん、ああ」などでもう何も話すことがない確認を行ない、終結宣言などの終結行動を経て終結し、次の課題が読み上げられることによって新トピックが開始するとしている。これらは、会話参加者の共同作業で行なわれ、進行役がいる場合は簡略化するとしている。
- 4) cの談話構造は、共通知識の構築 (知識要求-提供)、問題の提示-解決、説得、代案の提示-検討-作成などが、順不同で出現していた。またこれらは、すべてのグループに出現したのではなく、繰り返したり無いものもあった。
- 5) 1グループは男女2名で共同で進行役を行っていたので、除外した。また、実際の年齢ではなく、相手がどう認識していたかで年齢の上下を判定した。

参考文献

- 大浜るい子 (2000) 「日本人学生と外国人留学生における合意形成過程の比較」『広島大学日本語教育学科紀要第10号』広島大学教育学部日本語教育学科
- 郭 末任、菊池民子、許 夏、一二三朋子、楊 晶 (1998) 「ディスカッションにおける結論生成過程の日、韓、中比較」『各国留学生と日本人学生による共同研究——日中韓豪の討論場面における会話分析』お茶の水女子大学岡崎研究室
- 陳 明 (1997) 『フレームに見られる文化的差異——台日の大学生によるグループ討論』東京外国語大学修士論文
- 橋内 武 (1999) 『ディスコース——談話の織りなす世界』くろしお出版
- 藤井桂子、大塚淳子、杉山ますよ、森下雅子 (1998) 「討論におけるトピック移行の分析——日本人と学習者の比較から」『各国留学生と日本人学生による共同研究——日中韓豪の討論場面における会話分析』お茶の水女子大学岡崎研究室
- 泉子・K・メイナード (1997) 『談話分析の可能性——理論・方法・日本語の表現法』くろしお出版
- Brown, G. & Yule, G. (1983) *Discourse Analysis*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Tannen, D. ed. (1993) *Framing in Discourses*. N.Y.: Oxford University Press.

- Gumperz, J. (1982) *Discourse strategies*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Goodwin, C. & Goodwin, M.H. (1992) "Assesments and the struction of context." Duranti, A. & Goodwin, C. (eds.), *Rethinking Context*.
- Smithson, J. & Diaz, F. (1996) "Arguing for a collective voice: Collaborative strategies in Problem-oriented Conversation" *TEXT*.
- Watanabe, S. (1993) "Cultural Differences in Framing: American and Japanese Group Discussions." Tannen, D., *Framing in Discoures*. N.Y.: Oxford University Press.

〈キーワード〉 グループ討論, 結論生成, 進行役

The Role of the Leader in the Group Discussion in the Case of Japanese University Students

Atsuko OTSUKA

I analyzed the group discussions of Japanese university students.

The leaders existed in the groups and they played important roles to manage the discussions and to make the conclusions of the groups. Especially to make the conclusion of the group, the leader is expected to present the tentative conclusion, it must not be the personal opinion. And then the other members of the group ratify the presented conclusion. If one person would not ratify it, it would not be the group's conclusion. So it depends upon the leader whether to succeed in the discussion; to make the group's conclusion. The leader is chosen considering age and gender. And the leader has a responsibility for the conclusion of the discussions, so if leader wants to leave the position, he/she can do so.